

ほんがいっぱい



よんでみよう!

5・6年生のための本

①『ようこそ、難民!』

いまいずみ ねこ ちよ
今泉みね子 / 著 合同出版 《33》

しょうがく ねんせい
小学4年生になったマックスのクラスに、
シリアから転校生がやってきました。名前
はタミム。タミムは言葉で伝えきれないことを
絵に描きます。こわされた家、爆発の炎、銃を
かまえた人と、涙でにじんだお母さんと妹の
絵……。難民ってなに? どうして難民になる人
がいるの?



②『グランパと僕らの宝探し』

ほく たからさが
おおやじゆんこ さく みしまゆかり / 絵 朝日学生新聞社 《Fオ》

そだ ねんせい
オーストラリアで育った5年生のジュンヤ
は、クラスメイトとうまくいかない日々を送
っていた。ある日、転校生のジェイソンの祖父で
あるグランパから「宝探し」を提案される。そ
れは、「自分がされてイヤなこと」を三つ探して
くることだった。



ところざわ しりつところざわ としよかん
所沢市立所沢図書館 2019年

③『たかが犬、なんて言わないで』

さく きむらゆりこ やく しばたふみか え
リブ・フロード / 作 木村由利子 / 訳 柴田文香 / 絵 ぶんけんしゅつぱん 文研出版 《Fフ》

かわいがっていた犬を失った男の子、ヤーコブ。
二度と犬を飼ったりするものか、ぜったいに。
そう思っていたヤーコブの前に、飼い主を失っ
たっぴきの犬があらわれた。ひとりといっぴ
きはしだいに心を通わせるようになるが……。



④『ピアノをきかせて』

おまたむぎほ ちよ
小侯麦穂 / 著 こうだんしゃ 講談社 《Fオ》

あね ちづる
姉の千弦が、ピアノを楽しそうに弾かなくなっ
てしまったことを気にかけている響音。そんなとき、
おばに誘われ、ふるさと文化祭の音楽劇へ出演
することに。響音は、音楽劇を通して千弦に音楽の
楽しさを思い出させようと決意し……。



⑤『ソロモンの白いキツネ』

ちよ
ジャッキー・モリス / 著
ちばしげき やく あすなるしょぼう
千葉茂樹 / 訳 あすなる書房 《Fモ》

12歳の少年ソロモンは、いつ
もひとりぼっち。学校ではいじめ
られ、父親とゆっくり話をする
時間もなかった。ある日、1匹の白
いキツネに出会ったことで、ソロモ
ンは 祖父母のいるふるさとへい
くことになる。

⑥『青い月の石』

あお つき いし
トンケ・ドラフト / 作 にしむらゆみ やく
西村由美 / 訳 いわなみしよてん 岩波書店 《Fド》

古い遊び歌で遊んでいた子ども
たちの前に、地面の下から恐ろしい
姿の男が現れた。男は、勇敢に
も遊び続けたヨーストに、自分で取
りにくるなら青い月の石をやると
言って消えた。ヨーストは男の後
を追うことにしたが……。

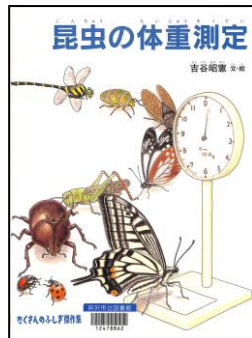
⑦『幽霊屋敷貸します』
富安陽子／作 篠崎三朗／絵
新日本出版社 《Fト》

季子たち家族が春休みに引越したお屋敷は、実は幽霊が住んでいる家だった。幽霊のお婆さんは、三つの問題にパスしないと住まわせないっていうんだ。最初の問題は、幽霊の名前をあてることだって！

⑨『昆虫の体重測定』

吉谷昭憲／文・絵 福音館書店 《48》

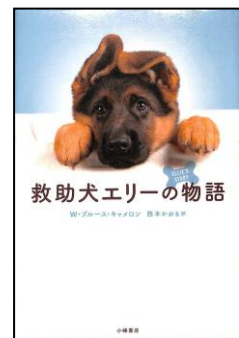
テントウムシの重さは、0.05g。切手1枚と同じ重さだ。ヤブカは、なんと714匹で1円玉と同じ重さになるんだって。では、カブトムシの幼虫と成虫はどちらが重いと思う？昆虫の重さをはかってみたら、いろいろなことがわかったんだ。



⑩『救助犬エリーの物語』

W.ブルース・キャメロン／作 西本かおる／訳 小峰書店 《36》

エリーは子犬のころ、警察官のジェイコブに素質を見いだされ、救助犬として訓練を受けることになる。エリーは、ジェイコブを喜ばせようと、<コイ><マテ><サガセ>などの訓練や、<シゴト>を繰り返していくうちに、自分が救助犬である意味に気づいていく。



⑧『トムは真夜中の庭で』
フィリパ・ピアス／作 高杉一郎／訳
岩波書店 《Fピ》

夏休みを、お婆さんの家で過ごすことになり、退屈しきっていたトム。真夜中に、古い大時計が十三回も鳴ったのを聞いて、寝室から抜け出し、目の前に広がる、いつもとちがう美しい庭園に足を踏み入れた。

⑪『七人のシメオン』
田中友子／文 大畑いくの／絵 BL出版 《M》

顔も、せたくも、名前も同じ七人兄弟。でも、それぞれが違うわざをもっている。ある日、王さまの命令で、海の向こうへ姫を迎えに行くことに。七人のわざで姫をつれてかえることはできるのだろうか？



⑫『6この点』

ジェン・ブライアント／文 ボリス・クリコフ／絵
日当陽子／訳 岩崎書店 《37》

小さいころ、事故で目が見えなくなってしまったルイ・ブライユ。「きのどくに」って周りから言われるけど、ぼくはただ、目が見えなくても文字を書いたり、本を読んだりしたいだけなんだ。

⑭『なぜこうなった？』

あの絶景のひみつ』
増田明代／文・構成 山口耕生／監修 講談社 《45》

巨大な鏡のように空や人をうつすウユニ塩湖は一体どうやってできたのだろう？オーロラはどうして色がっているんだろう？そこにはおどろきの自然のしくみや歴史があったんだ。

⑬『モスクへおいでよ』

瀧井宏臣／著 小峰書店 《16》

モスクはイスラームの礼拝堂。東京にもあるんです。中は幾何学紋様やアラビア文字で装飾されていて、とても神秘的。礼拝ってどうやるの？ラマダーンって何？この本でイスラームのことに詳しくなろう！

⑮『しあわせの牛乳』

佐藤慧／著 安田菜津紀／写真
ポプラ社 《64》

たくさんの牛乳を出すために栄養の多いえさを与えられ、牛舎内で動くこともできずに育てられる牛たち。それを見た「なかほら牧場」の中洞さんは、牛も人間も幸せになる酪農に挑戦します。